１月度「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

２０２０年１月３０日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
０７５－７２３－４８３５

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度１月９日（木）～１月３０日（木）にかけて「戦前期京都市民の民衆史－ウエダヤ薬局上田蟻善（ありよし）の京都渡世－」と題して、４回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　２０２０年 １月９日・１６日・２３日・３０日
いずれも木曜日１３：３０～１４：００

■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ

■ 参加者数　　３４名（９日）、４０名（１６日）、３２名（２３日）、３４名（３０日）
合計　１４０名

■ 内　　容
講師　　京都府立京都学・歴彩館　京都学推進課　杉本　弘幸
「戦前期京都市民の民衆史－ウエダヤ薬局上田蟻善の京都渡世－」（全４回）
第１講　オヤヂのめざめ－ウエダヤ薬局開業と「へいみん」の発刊－
第２講　狂言とギロチン－京都本草会・大蔵流狂言・南座－
第３講　シュトゥルム・ウント・ドラング－社会民衆党京都支部結成と京都府議選・京都市議選－
第４講　自由への疾走－無産政党合同運動とその死－

■ 講座の様子
現代の京都は、時代時代に生きた人々の足跡の上になりたっている。今の京都を形作った多くの人々の内の一人が今月ミニ講座の主人公、上田蟻善である。
京都市三条富小路東入にウエダヤ薬局を開業した蟻善は、驚くほど広い交友関係を最大限に利用して本業だけではなく様々な活動に邁進する。第１講ではミニコミ誌「へいみん」の刊行を通じてアナーキズムへのめざめを論じ、第２講では古典芸能の教養を身につける一面を、第３講では政治の世界に飛び込んだ京都市議蟻善の姿を、第４講では“自由”を求めて疾走し、無産政党合同運動を展開した蟻善の姿を分かりやすくお話しした。
薬局店店主の蟻善とアナーキストとしての蟻善、そして無産政党右派としての蟻善、いったいどれが彼の本質なのか。それは蟻善本人の苦悩と葛藤であった。大正・昭和初期の京都を駆け抜けた一人の京都市民のバイタリティは、投票率が低迷し、政治への無関心が叫ばれる現在の京都に生きる我々に問いかけることも多く、意義深い講座となった。